

日本にある洋製 Gregory 式反射望遠鏡 (遺稿)

中 村 要

1. 現在神戸三中にあるもの、1918年頃神戸の Schoffied が C. Baker から輸入したもので、其後森下助三郎氏の手に移り、マウンティングを赤道儀に取換られて後神戸三中に 1922年頃賣却された。口径10糎で Secondary mirror 及び Eyepiece 二個あり。鏡面は森下氏が紅柄で磨いて美しくなつて居るが、原面はつぶれて居る。1800年頃の作であるらしく、1840年頃に Cuthbert? なる Optician が refigure したと箱に書いてあつた。

2. 東京の早稲田大學に10糎のものがあると聞いて居る。

3. 大阪の天文家高橋の所持したもので、オランダより幕府に献上したものだとして居る。口径は7糎で、立派な工作である。

4. 1926年7月に現在大分女子師範に居る清水春雄氏が京都中學に教師である時、一中學生が持つて來たもので、7糎のものである。同中學生は所在不明。グレゴリー式の典型的のものであつて、J. Van der Bildt, Franeker なる製造者の名前があつた。7糎鏡は Optical に検査すると可なり亂雑なものであるが、球面からやゝ correct された不規則な面であつた。Secondary mirror の面は自分が磨き直した。手許に寫眞がある。

5. 神戸の射場氏が神戸の眼鏡屋で購入されたもので、昔し長崎で購入したものだといふ。Optical の面は、自分がアンモニヤ水で洗つたら、豫定の様に美しくなつた。しかし、太陽の黒點がやつと見える様な貧弱なものであつた。今は東京天文臺に標本として寄贈されて居る。英國製で C. Adams といふ記號があつた。

附記 日本國內には外國製品が未だまだある事と思ふが、経路は多く長崎より來たもので、オランダを経て居るものと考へられるし、維新前とすれば 1780—1800頃から來て居りはすまいかと思はれる。